
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
10
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
10
めいびい

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

10

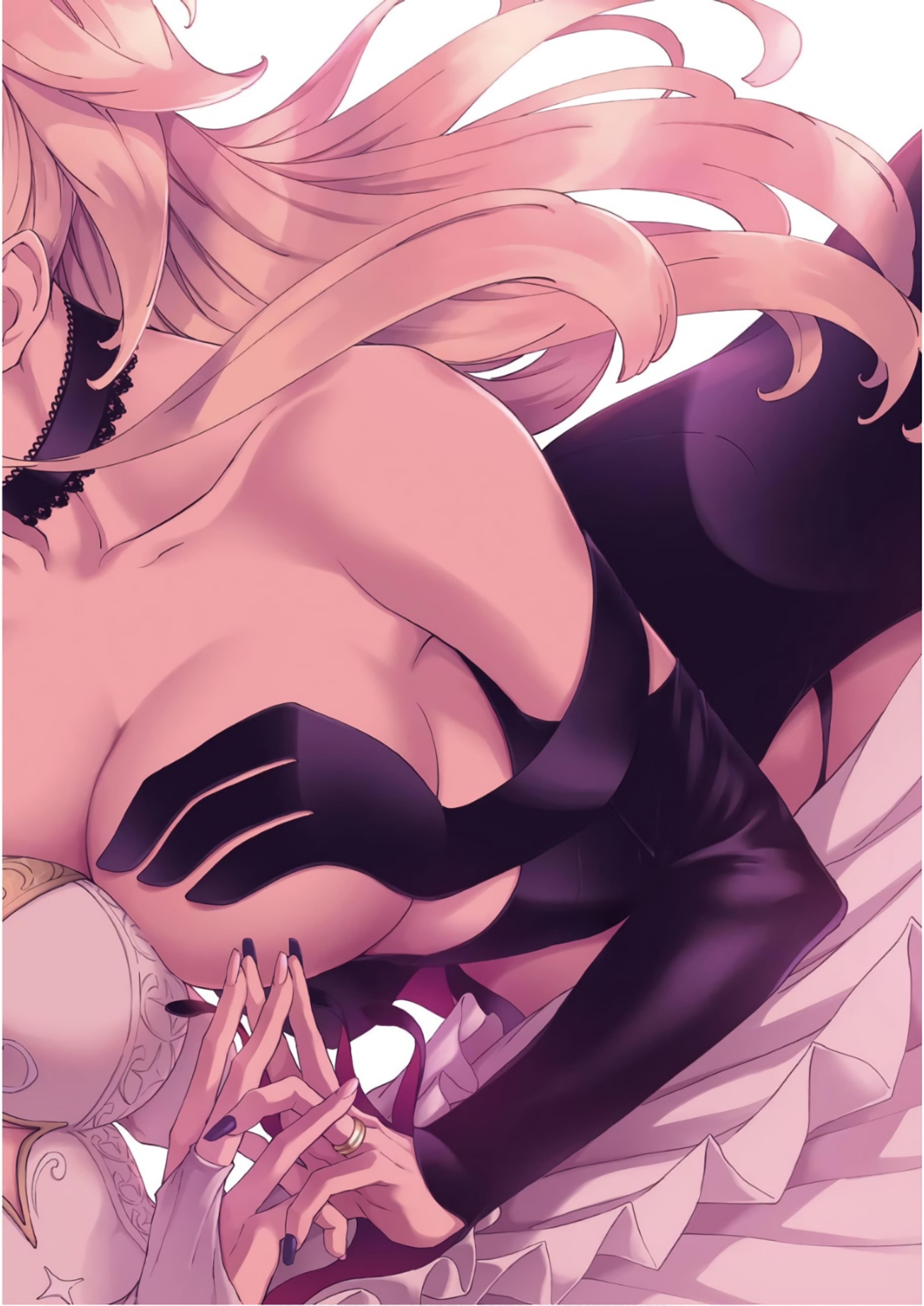
Contents

Presented by
MAYBE


勇者サトウ…
この日が来るのをどれ程待ちわびていたことか…
ともに深淵王を打ち倒しましょう
ああ…


!?
指輪王サトウ
わたしたちは
あなたの〝物〟
いかなる
命令でも
なんなりと…


サトウ様
すべてはあなたの望むままに



第52話





結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


むく…
大丈夫か!?サトウ!
タタタタ


もうう…
お兄さんちゃんと話も聞かずに入っちゃうんだから！
あ〜…
えっと…？
幻覚を見せられたのです
私たちも何度か侵入を試みたのですが
内部は魔力でねじ曲げられかつての尖塔の姿ではありませんでした
で
迷ってるウチに気がついたら入り口から外へ逆戻り
はぁ…
指輪王サマならなんとかしてくれるかも…って思ってたんだけどなぁ〜〜


何が…
どうなってるんだよ…


魔導の尖塔
変形ダンジョン
対策本部!


まず…
塔が変な形になってからそんなに時間は経ってません
お兄さんが来てくれたのはほんとナイスタイミング
ヒメはどうなってるんだ…
あの中にいるのはヒメで間違いないんだろう？
ム…
だから心配しないでってつもりで言ったんですけど……
クリストルのことは詳しくは分からないのごめんなさいね
ただあの子の魔力が塔を変えてしまうのを
私たちはこの目で見ました
そしてその傍らに深淵をまとう何者かの姿も
言い訳にしかなりませんが…私たちも警戒はしていました
しかしそれをくぐり抜ける程の僅かな闇の力だったのです
それはクリストルの心の隙を突き彼女の魔力を利用してこれ程のことを成し遂げました


ヒメは
深淵王の手下に
されたって
ことなのか？
深淵王の騎士
みたいな……
それは…
たぶん
違うんじゃ
ないかな
うむ…
光の指輪とともに
クリストルを
連れ去れば
深淵王の憂いは
なくなるはず
じゃろう
それをせんと
いうことは
あるいは
この状況が
深淵王にとっても
予想外のこと
なのかも知れん
塔の中で
ヒメを
見たんだけど
確かに…
なんか妙な
感じだったな
お姉ちゃんと
会えたの…!?
あたしたちはただ
回廊の幻影を
見せられただけ
そっか…
お兄さんは
やっぱり
特別なんだ…



これは仮説なんだけど…
塔の中はお姉ちゃんの魔力で作り出された世界
つまりお姉ちゃんの心の中みたいなもの
魔力が暴走してめちゃくちゃなことになってるけど…
お兄さんの前にだけ現れたってことはやっぱり会いたいんだよ
でもお兄さんはそこで何かを間違えた
だから拒絶されて追い出された
俺が…
ヒメに拒絶された…？
魔力と心は繊細な繋がりを持つのです
十分考えうる話です
深淵の力によって心を蝕まれているのだとすれば
それを整えてあげられれば戻せる可能性も十分に
つまりだ
クリストルの心に寄り添えば良いということだな！
分かった…
やれるだけのことはやってみる


きっとこれは
俺に与えられた試練なんだ…


どうした？
いや
何か…
ヴォウウウウン…
‼
あれは…
深淵の⁉



あれを見ろ！魔物だ!!
どうしてここに…!?

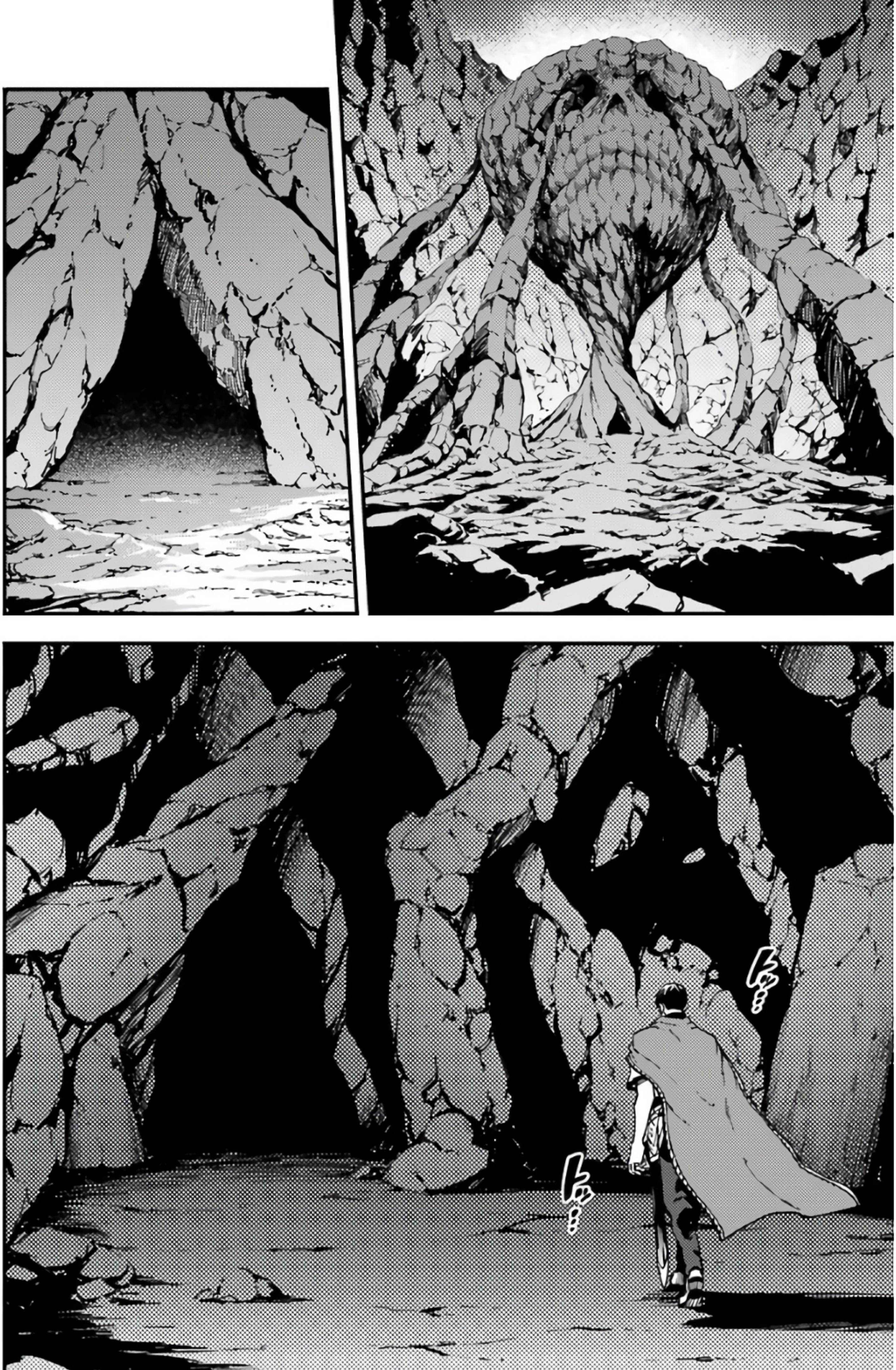

くそっ…こんな時に…！
クリストルを連れ去ることこそ出来なかったが
深淵王にとって好機には違いない
見逃してはくれなんだか…
これだけの軍勢を送り込んでくるとは
深淵王は相当元気になってきておるようじゃの
それは違う
今まで直接攻撃をしかけてこなかった
これはかなり無茶をしている
ここの者たちは魔法使いばかりですが学者のようなもの
多くは戦いに不慣れです…
一度皆で逃げるべきかと
クリストルを置いてか？
それこそ深淵王の思うつぼだろう
わたしは戦うぞ！
俺たちでなんとかしよう
守り易いように塔の人たちを集めて……


いや
サトウ
お前は一人で
塔に入るんだ
クリストルを
取り戻してくれ
今こそ
光の魔法が
必要だ
塔の中が
心の世界だと
いうのなら…
わたしたちは
クリストルに
とっては
邪魔者だろう
ぽんっ
これは
お前にしか
出来ないことだ


グラナート……
なに
敵の足止めくらいは
十分にしてみせるさ
わたしたちは
強くなったんだ
分かった…
だけど
絶対に無理は
しないでくれ
しんどいが
やるしか
なかろう
アンバルがいる
大丈夫
わしらも
いるんじゃ
心配いらんよ


サトウ…
そんなに気張らんで良いぞ
……？ ありがとう
絶対にこの手でヒメを連れて帰るよ
みんな
それまで耐えていてくれ！
バサァ


お兄さん ちょっと雰囲気変わったんじゃない？
えへへ…
結構カッコイイかも……♡
ええ…マジか…
おぬしあんなのがシュミなの……
妾（わらわ）には危（あや）ういようにしか見えんがの…




ズキッ
さっきは
気づかな
かったけど
めちゃくちゃ
だな…
ド…
ド…


勇者サトウ
ずっとお待ちしていました…
わたしと婚姻の契りを結び
ともに深淵を討ち滅ぼしましょう
ヒメ…



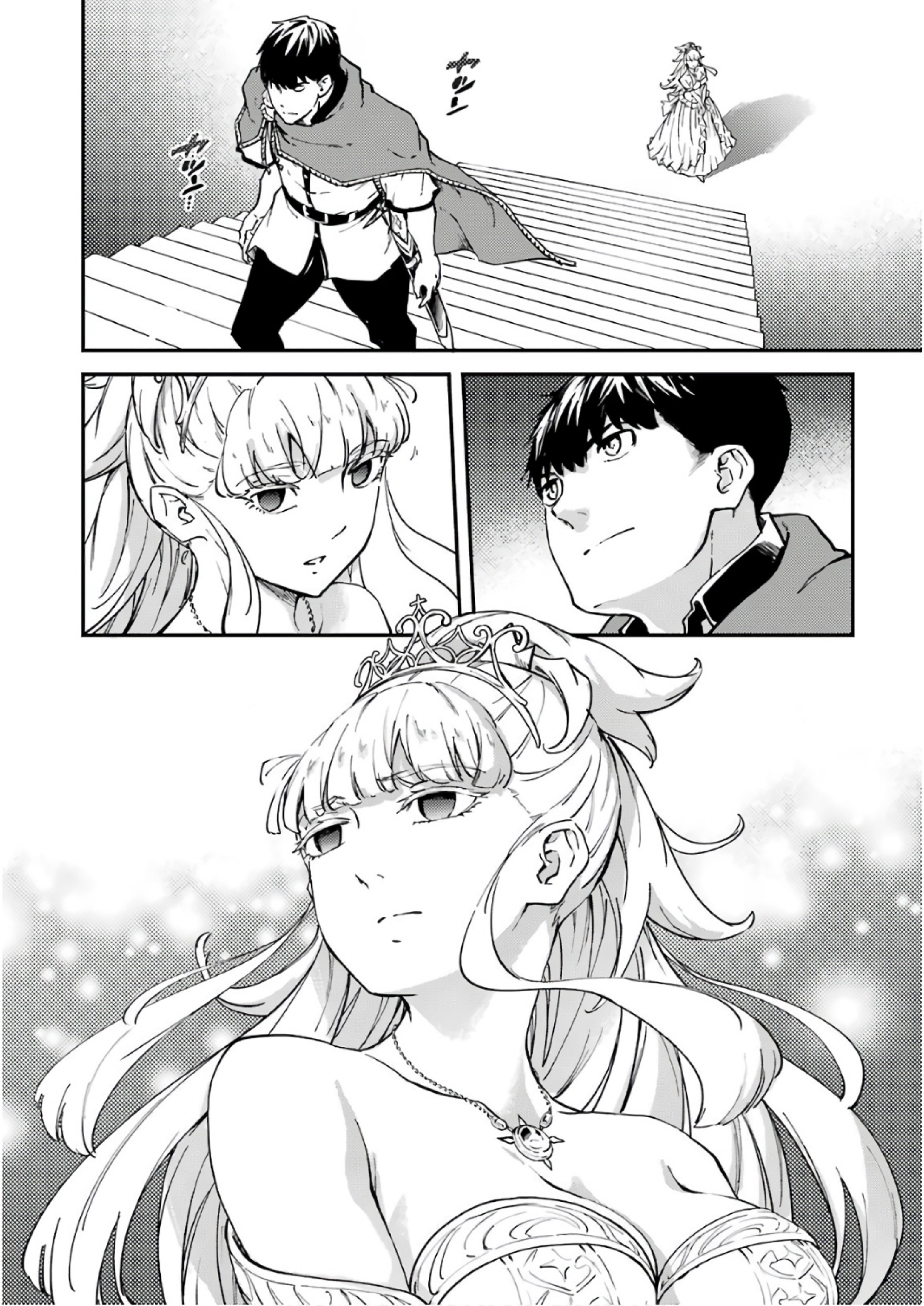
この世界を救うことが俺の使命
そのためにはヒメの力が必要なんだ
俺は…たとえこの身が砕け散ったとしても必ず君を守る
そう誓ってここに来た
俺が何を間違ったのかは分からないけど…
深淵に負けちゃ駄目だ!
一緒にここから出よう!!!


はい 指輪王様…
さぁ わたしの手を取って そして口づけを
そうすれば 指輪の力は あなたのもの
わたしのすべても あなたのものに…
いや…
コレじゃ前と おんなじだ
何が間違ってるんだ？
俺は指輪王で ヒメは光の姫だ
じゃあ この手を取る 以外に 何が出来るって 言うんだ…

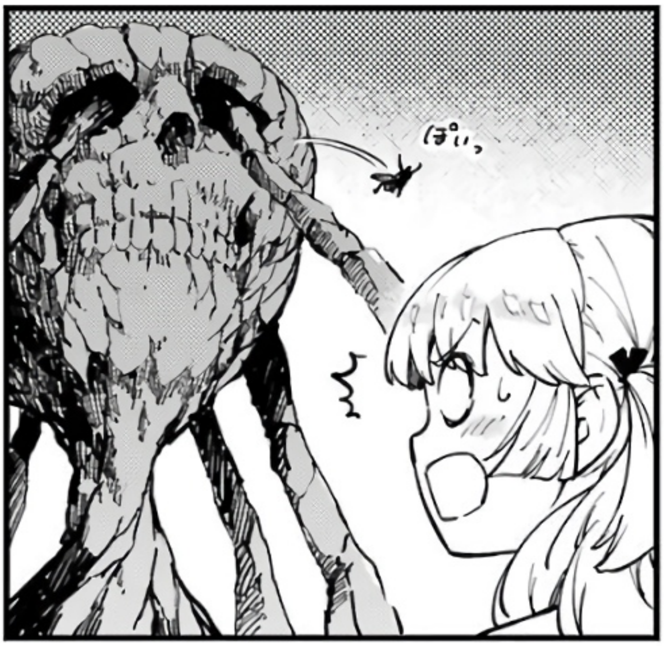

ヒメを
取り戻して
光の力を
取り戻して
深淵王を倒す
それが俺の
俺にしか
出来ないこと
じゃあ
ヒメは？
ヒメの
すべきことは？
ヒメは
何がしたいんだ？


そうか
これは…あの時のヒメだ
どうしましたか…？
俺はこの世界では指輪王だ
でもそれが俺のすべてじゃない……
わたしとともに世界を……
ヒメだってきっと同じなんだ


ああ
だけどそれは今することじゃない
俺のやらなくちゃいけないことは…



カツーン
カツーン…


ぽいっ

結婚指輪物語

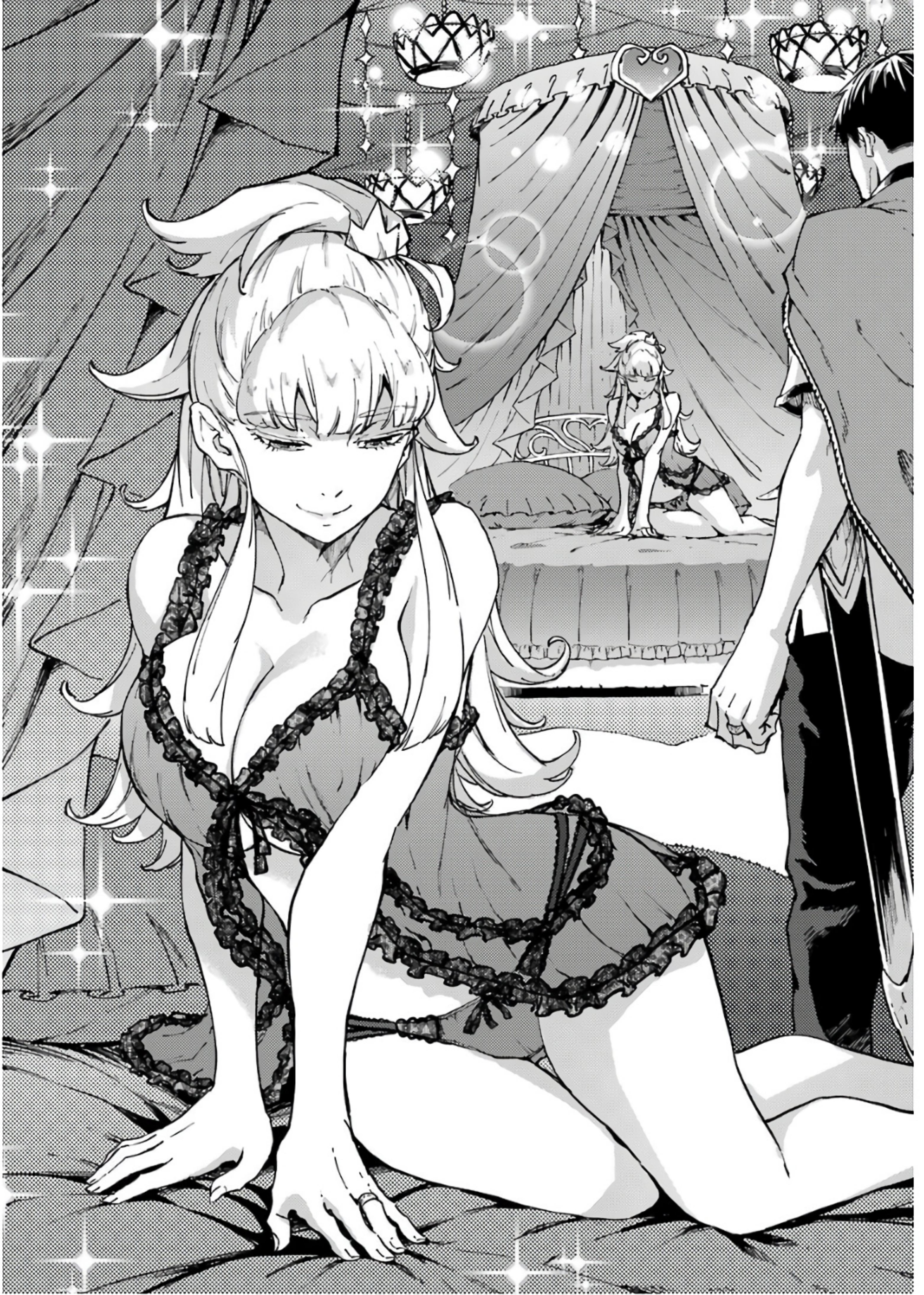
TALES OF WEDDING RINGS


カツン…
カツン…
塔の中はお姉ちゃんの魔力で作り出された世界
つまりお姉ちゃんの心の中みたいなもの
魔力が暴走してめちゃくちゃなことになってるけど…
第53話



絶対にヒメを…
本当のヒメを連れて帰る
それが俺のやるべきことだ

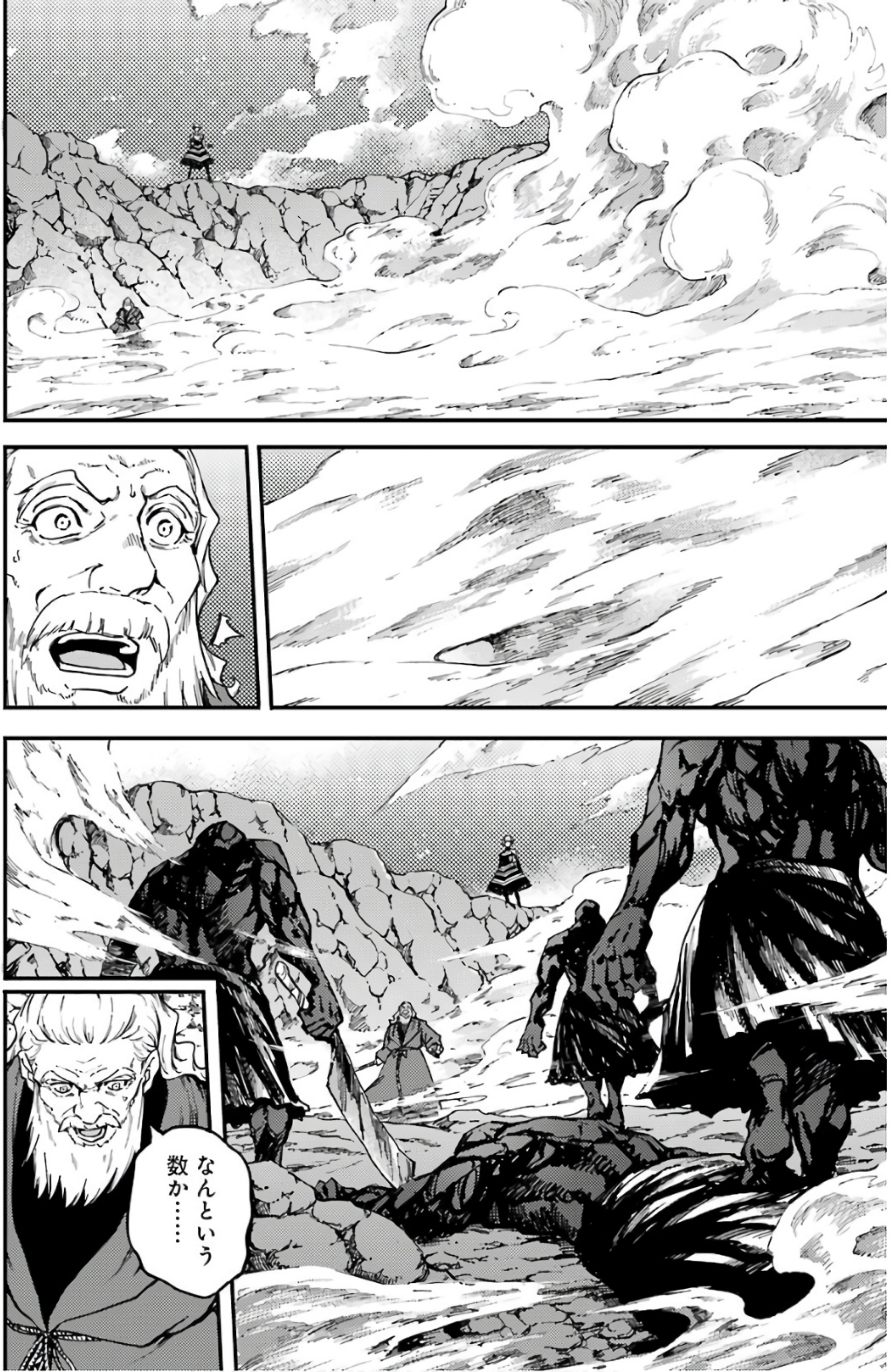

ギィィィ…




ドドーーーン
パパーーン
トローーーン……♡
エッッッッ


ハアアア…


…フンッ!!
ドドドドド
今じゃ!!!
ブゥゥゥゥン…。

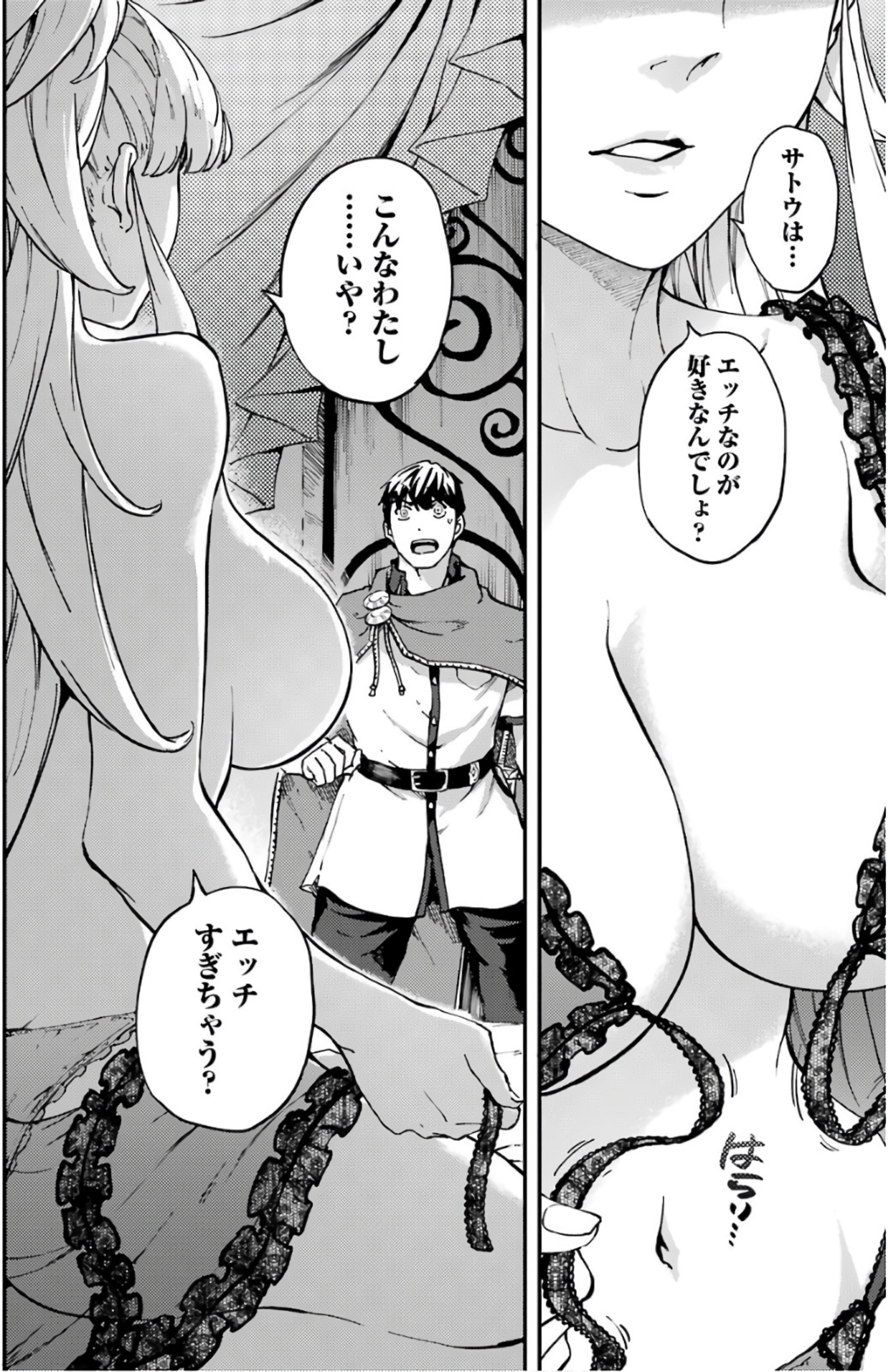

なんという数か……



深淵王…
これ程の軍勢でもまだ完全ではないとは……
これではキリがないのじゃ…
雑魚ばかりとはいえ妾たちだけでは抑えきれんかもしれんの
みなさん
下がってください！




でかした！
ネフリティス！
この僅かの間にここまで成長するとはのう…
才能があるとは思っておったがまさかこれ程までとは
あまり長くは持ちません…
みなさんこの間に態勢を整えてください
指輪王…
早う(はよ)頼むぞ

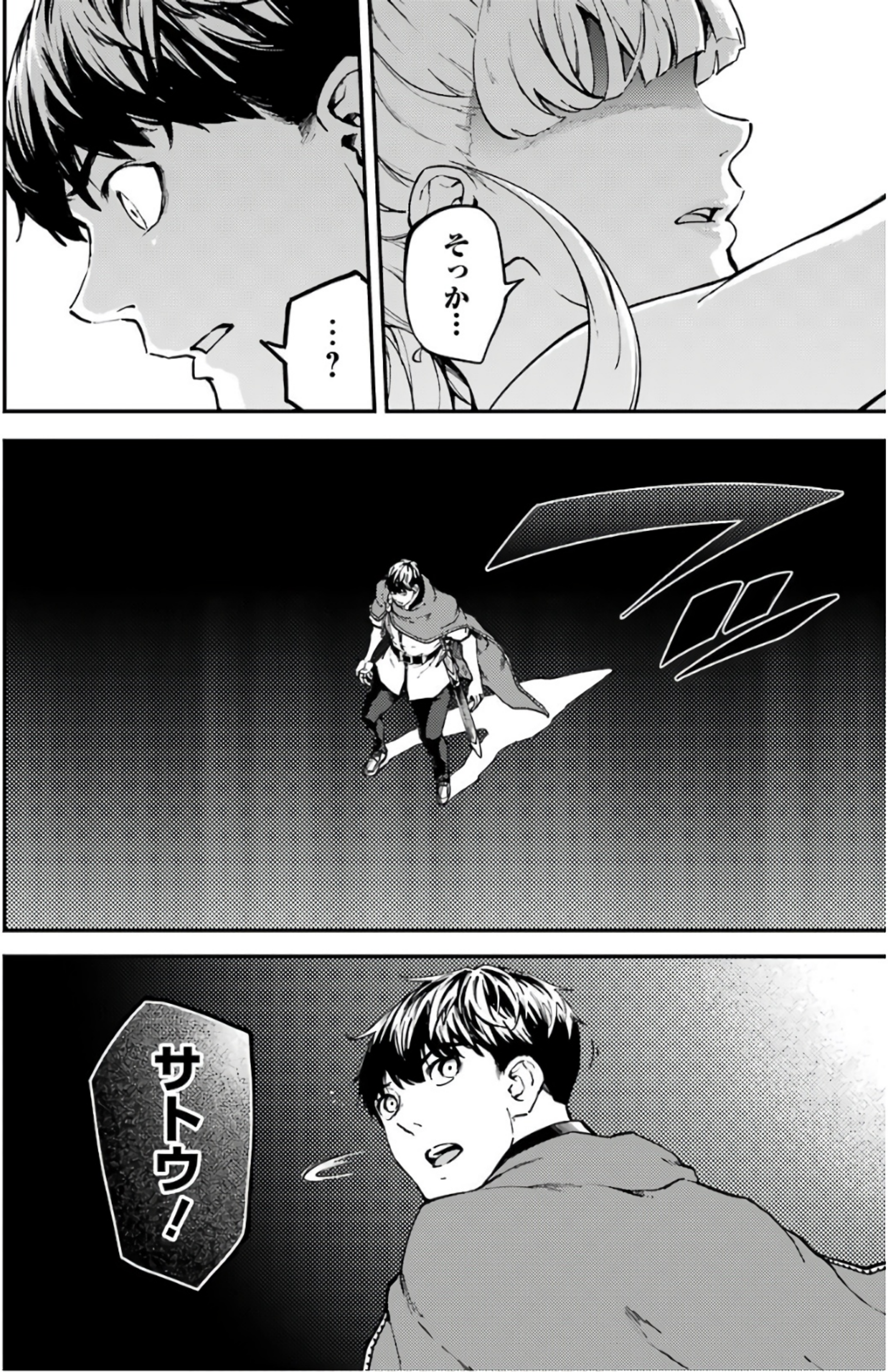

サトウは…
エッチなのが好きなんでしょ？
はらり…
こんなわたし……いや？
エッチすぎちゃう？



いや…
とても
良い…
良いと
思います!!!
そうだよ
ね……
わたし自分で
言うのも
なんだけど
結構
自信あった
んだ
サトウは
わたしのこと
絶対好きになって
くれるって
?
ほら
ぼーっと
してないで
こっち来て!


だったら
…どうして
サトウはそんなに
我慢しちゃうの？
わたしは
もう……
これ以上
我慢なんてしたく
ないよ……


違うんだ…
俺だって我慢しているわけじゃない
ただ今は…
それだけじゃ駄目なんだ！


そっか…
…？
ヅ
サトウ！


どうしたの？
ぼーっとしちゃってさ
…!?


これは…
今度のは
普通だな…
ヒメ…
あのさ
ね？
どっか寄り道していこっか
行こいこ！


このヒメは
俺が一番よく
知っているヒメ……
幼馴染みで……
一番の友達で……
俺がずっと
好きだったヒメだ


ねぇ
わたしたちって
もう恋人同士みたいじゃない？
ホントに付き合っちゃおっか？
なんちゃってね～～～っ
冗談だよ
冗談！


わたしたち…
ずっとこのままいられたら良いのにね…
サトウ…?
ごめんヒメ…


俺もう
行かないと駄目なんだ
………
そう…だよね…
わたしたちもうこの頃には戻れない

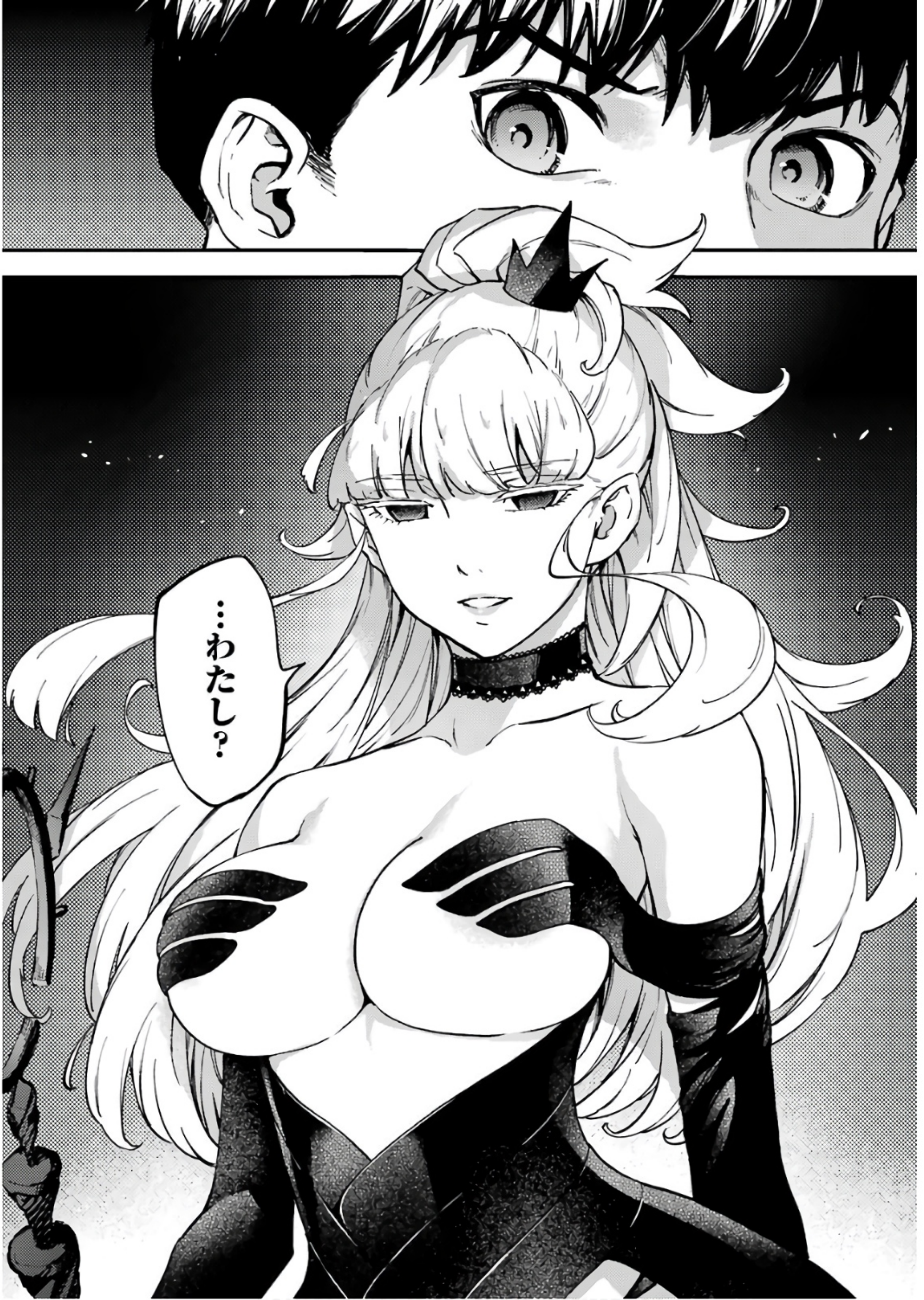



…あなた
名はなんと言うの？
俺は…
俺はサトウだ
サトウ…
…そう変わったお名前


サトウ…
わたしが…
あなたのお友達に
なってあげる


そうだ……
この時俺は
幼いなりに
思ったんだ
俺がこの子のことを
守ってやらなきゃならない
そして
それはきっとこの先
長い間続くことなんだと


そうか……
やっと分かったよ
俺が探しているヒメが誰なのか
…大丈夫だ
あの頃のヒメにはあの頃の俺がいる
俺のヒメは君じゃない
俺のヒメは…


…わたし？


ぎゅっ

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


探していたのは
…わたし？
第54話
ああ…
俺はお・前・に会いに来た


ヒメ……
…帰ろう
外は
大変なことに
なってる
ヒメの力が
必要なんだ


…そんなこと
もうどうでもいいでしょ
!!


世界がどうとか
そんなことは
もうどうでもいい!!!
わたしは
サトウさえいれば
それでいい!!!


どうしたんだ!?
ヒメ!!
わたし…
サトウのために頑張ってたのに…
ぜんぜんダメだった
そしたらね…誰かが教えてくれたの
もっと我が儘でいい…
自分の望みに素直になっていいって!
〝誰か〟…
深淵王の眷属か!


わたしはサトウさえいればいい…
サトウとふたりだけの世界……
サトウ…はやくわたしと
ふたりきりになろう？


どうして？
わたしはサトウと一緒になりたいだけ……


サトウは…
イヤなの？


わたし…
サトウがここまで
来てくれるって
信じてた
わたしのために
来てくれたんだよね？


当たり前だ!!!
だったら どうして 抵抗するの?
!!


指輪王の姫としてのわたし
欲望の対象としてのわたし
幼馴染みとしてのわたし
そして
守るべきものとしてのわたし
ねぇサトウ…
他のわたしじゃダメだったの？


どれでもあなたに都合の良いわたしを
選べばよかったのに



そんなの…
決まってる


今の俺を
必要としているのは
今のヒメ
だからだ
嬉しい…




ヒメ…？
わたしはもう
サトウさえいればそれでいい




うそ…
どうした？モーリオン
むぅ…
これは……
マズいことになっとるかもしれん


指輪王の…
光が消えた…
これは…好機です…
深淵王様…


ブヴォォオオオン…
な…
なんじゃ!?
増援か!?
ズゾゾゾ
ズゾゾゾ…
こ……これは…
なんという…

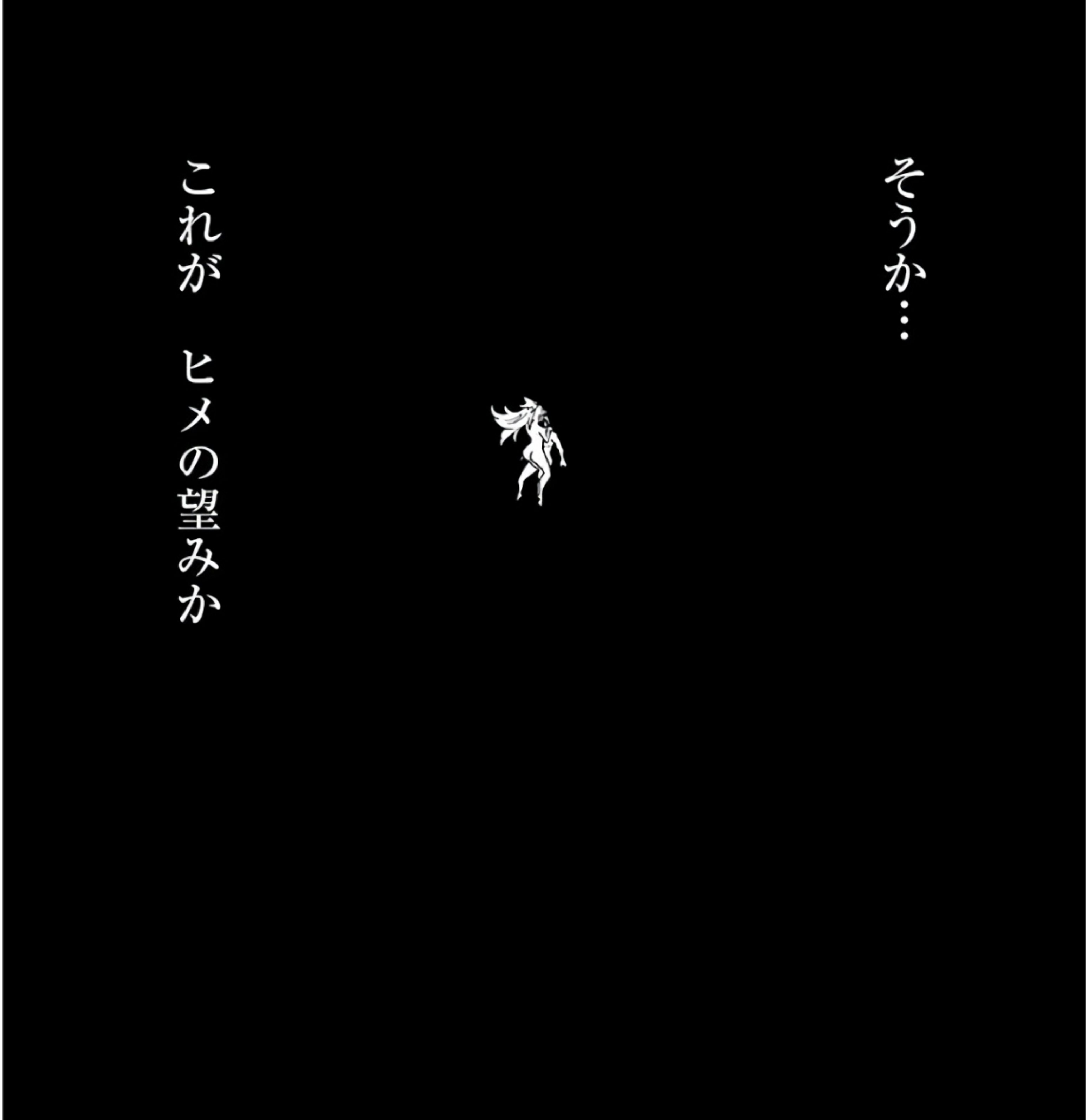



ズシーン……
ズシーン……
デカブツを送り込んで来よった!?
風の壁を突破するためか……


さすがにあんなものが近づいてきたら手に負えないぞ!!!
サトウくん…


何も聞こえない…
ここは…どこだ?
暗い…


ヒメ…


そうか…
これが　ヒメの望みか

…何も
無いじゃないか


暗い…
何も見えない
なぜだ!?
……

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS

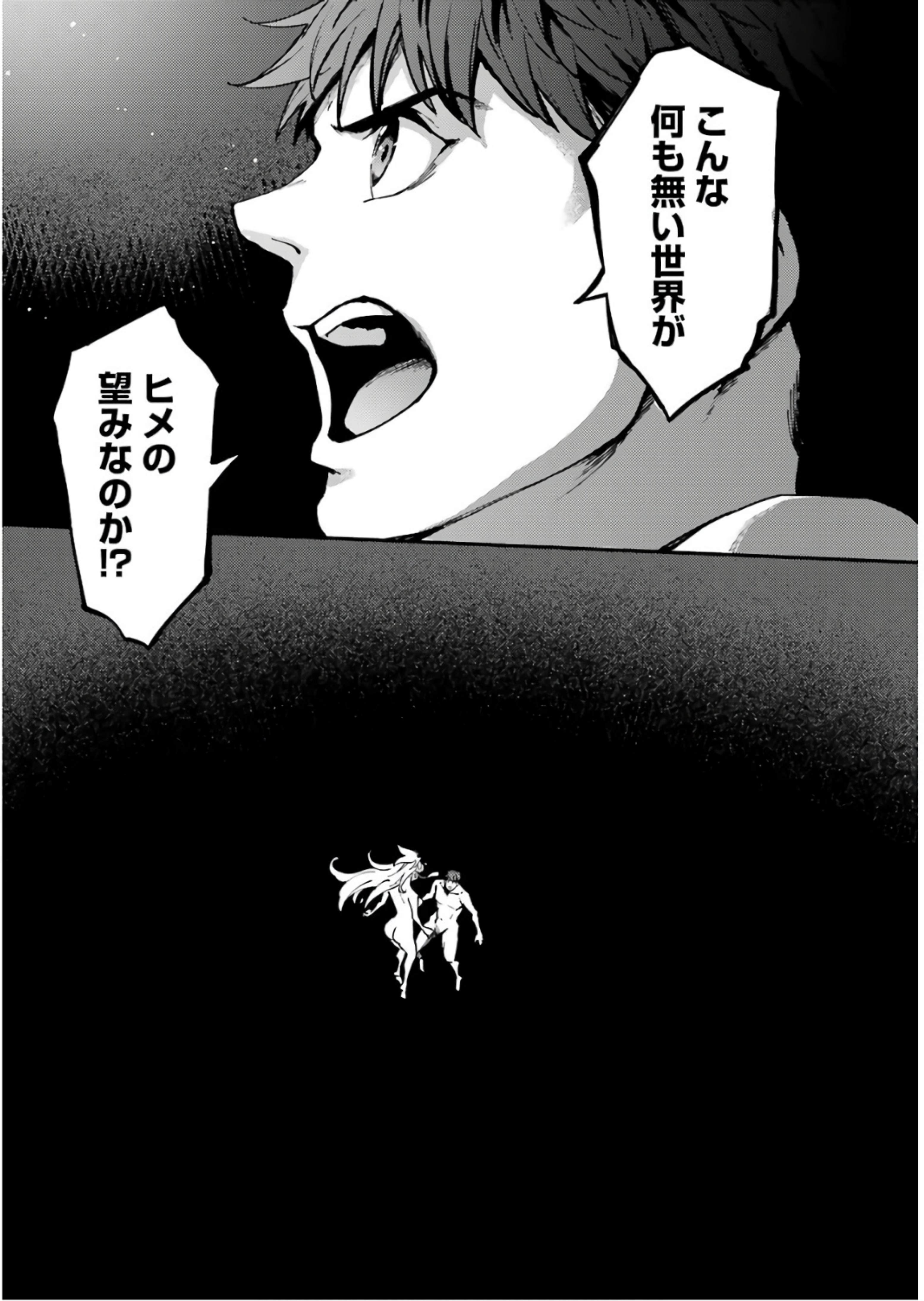
第55話


ずっと苦しかった
指輪の君として生まれた定め
それに殉じるはずだった
…なのに
サトウが来てしまったことで苦しみが生まれた
命を賭けた戦いに巻き込んでしまうこと…
他のお姫様とのこと…
サトウさえいなければ
こんな苦しみは生まれなかったはずなのに
苦しみと向き合って受け入れなくちゃ…
耐えなくちゃ…
…そう思っていた
思おうとしていた


……でも
やっと分かった
本当は
世界も使命も…
どうだっていい
わたしは
サトウさえいてくれれば
それでよかったんだ…


だって
いま…
こんなにも
幸せなんだから
サトウ……
わたし
だけの…
…サトウ


…これだけか？
え…？
ヒメが欲しいのはこれだけなのか？
…何も
無いじゃないか
そんなことないよ……
サトウがいる


こんな何も無い世界が
ヒメの望みなのか!?

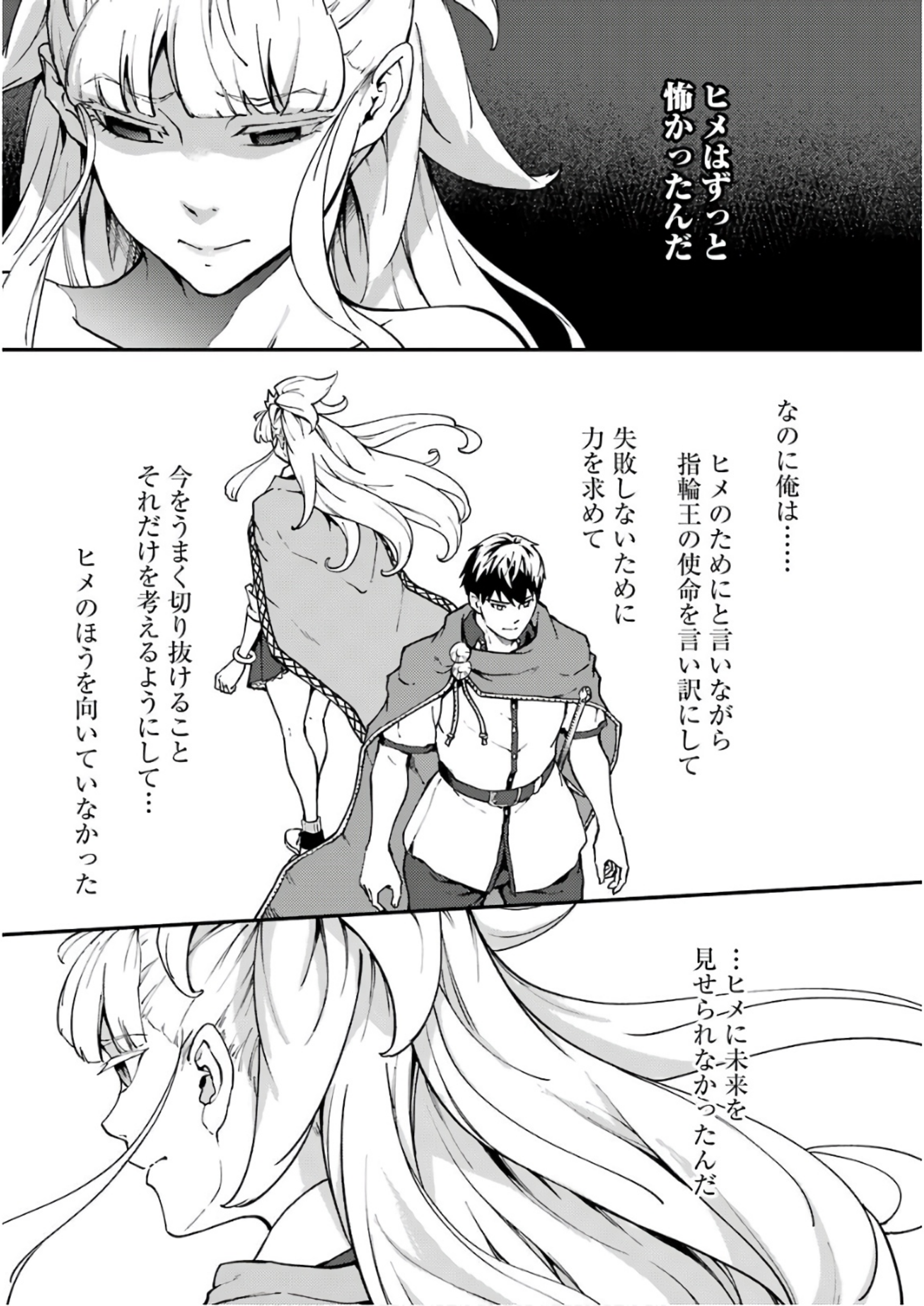

そうだよ…
深淵王も指輪の姫もいない
サトウとわたしだけの世界
サトウが戦って死ぬこともない
サトウが他のお姫様を好きになることもない
わたしたちの関係はずっと変わらない
ふたりの永遠の世界
……何も
無いじゃないか
丘の上の白い家も!!
一匹の犬も!!
幸せな家庭も!!
こんなので満足なわけがない!!!


幸せな家庭？
そこに他のお姫様はいるの？
!?
サトウは誰が好きなの？
わたし以外も好き？
心が……ぐちゃぐちゃになる


サトウ以外は無くていい!!
グラナートもネフリティスも
アンバルもサファィールもみんないらない!!!
ふたりの未来なんていらない
ふたりだけの今があればそれでいいの!!!
…っ!!


…そんなの諦めてるだけじゃないか
嫌なことを消して…嬉しいことも消して…
こんなのが幸せだって…？
だったらヒメはそんな顔しないだろ……
……
じゃあサトウは死なない？
他の子が一番にならない？
絶対にわたしだけだって
そう言ってくれるの？
分からない…
怖いよ…


分からないなら
そんな未来いらない
……そうか



ヒメはずっと
怖かったんだ
なのに俺は……
ヒメのためにと言いながら
指輪王の使命を言い訳にして
失敗しないために
力を求めて
今をうまく切り抜けること
それだけを考えるようにして…
ヒメのほうを向いていなかった
…ヒメに未来を
見せられなかったんだ


じゃあどうする？
ね サトウ…
怖いことも
嫌なことも
いらないよね
ずっとずっと
ふたりきりで……
俺はずっと…
ゆっくり着実に進むべきだと思ってた
でももうそれじゃ駄目なんだ



覚悟を決めて前に進む
何があっても失敗しても
絶対ヒメと乗り越える
俺は…
今度こそヒメを抱く!!!


……は?
はあ!?
なんで!??
真面目な話なんだ!!!
ガバッ


深淵王に二度と負けるわけにはいかない…
過去の指輪王のようになってはいけない…
絶対に失敗は許されない
そうやって俺もいつの間にか怖気づいていたんだ
大事なことだからと先送りにして前に進もうとはしなかった
…それじゃあこの真っ暗で何も無い世界とおんなじだな


俺がヒメに
未来を見せる
ヒメも
俺と未来を
見てほしい
もう一度
聞かせてくれ
ヒメは
どうしたいんだ？
本当は
何が欲しいんだ？
俺は
ヒメが欲しい!!


わたしは…サトウと……サトウと一緒に…暮らしたかった
子供の頃から側にいてくれた人とわたしを大切にしてくれる人と
ずっと一緒にいて…
笑ったり…泣いたり…喜んだり…
大好きな人といつまでも…
俺はヒメの望みを叶えるためにここにいる
…だからもっとふたりの望みを叶えさせてほしい


ヒメ！
一緒に前を向こう
…うん！

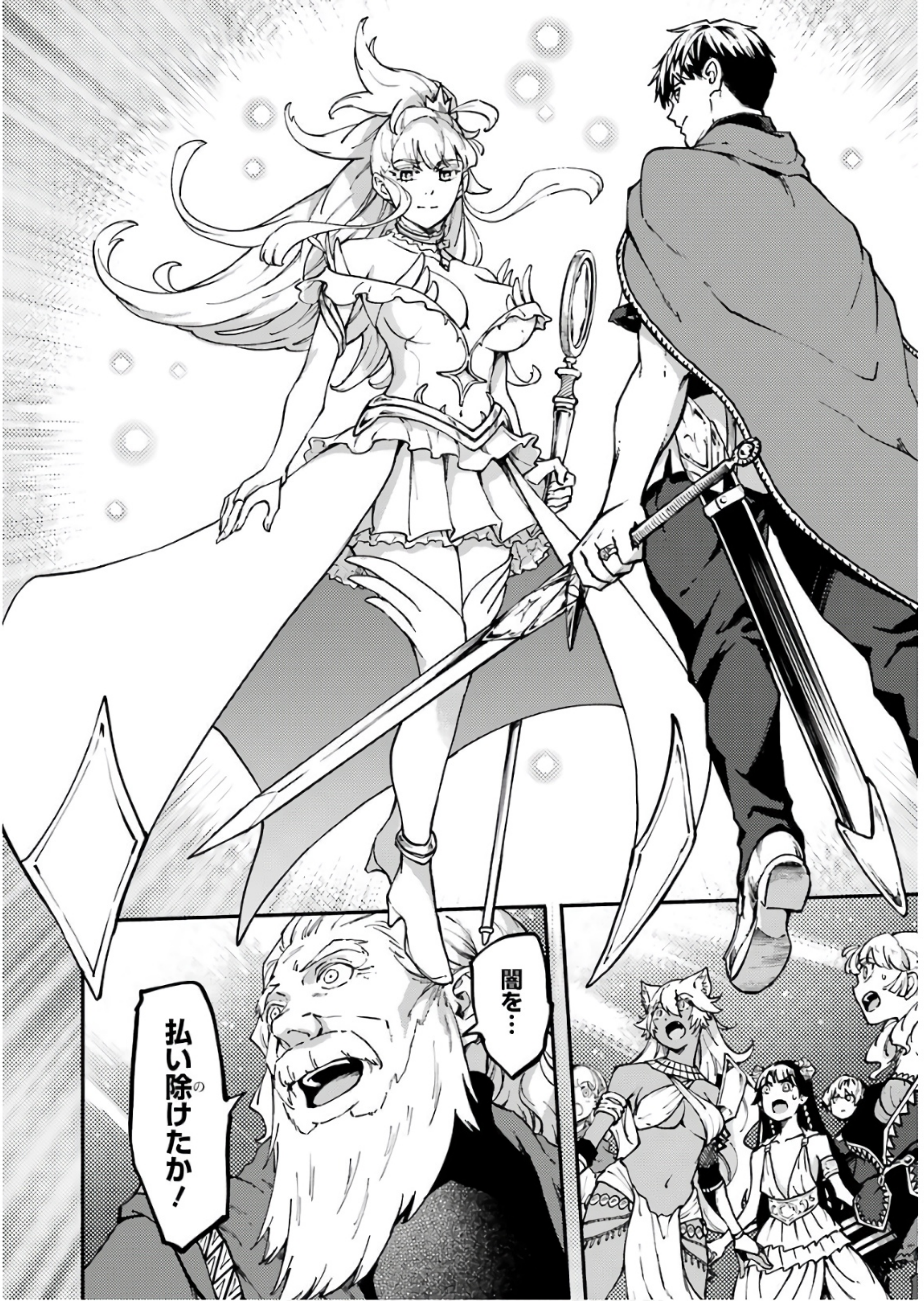

そうだ……
サトウがいれば何もいらない
じゃない
サトウとなら
もっと――

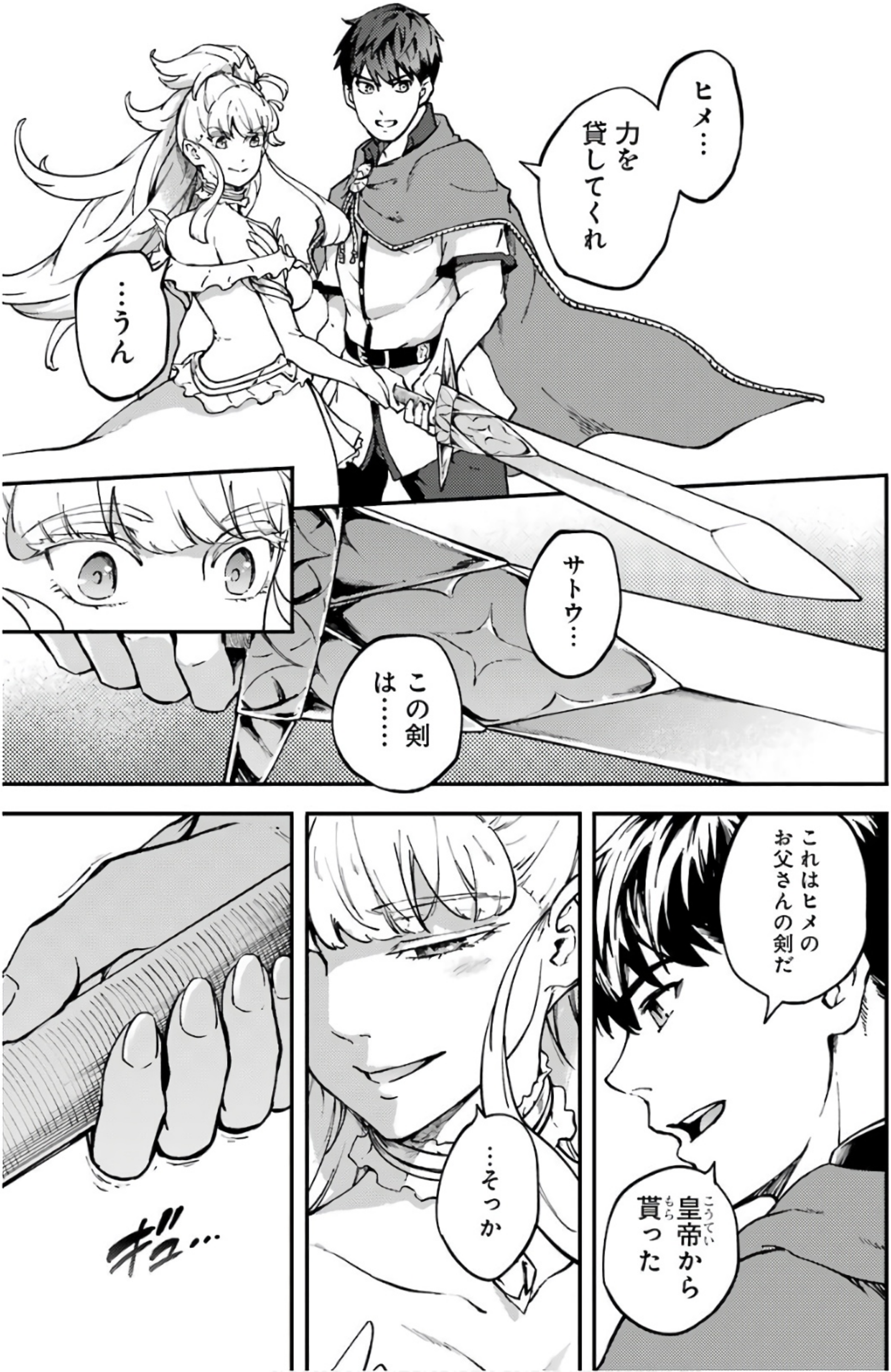

ドオオオ…


いかん…このままでは！
アラバスタ！
サトウはどうなってしまったんだ⁉
……
サトウくん…


!!
なんだ…!?
塔から光が……!!
ビキィ…




闇を…
払い除けたか!



ヒメ…
力を貸してくれ
…うん
サトウ…
この剣は……
これはヒメのお父さんの剣だ
皇帝から貰った
…そっか
ギュ…










うわぁ なんだこりゃ…
めちゃくちゃだな……おい
クリストルの光が…
闇に打ち勝ったのですね




サトウくーん！
一時はどうなることかと思うたが…
…え？そうなの!?
サトウくんのおかげでクリストルも光の魔力を己が手にしたようじゃの…
詳しくは当人たちに聞けばよかろう
ひとまずはめでたしめでたしじゃ
おーいサトウー！
クリストルさまー！
ピカァー
!?


なんだ…⁉
塔の天辺がまた光に覆われて…
ねぇ おじいちゃん! どうなってるのこれ……
むぅ…
あの光……
今までとは違う輝き…
新たな力を感じる
どうなっとるんじゃ…
いったい……




山ごと
ふっとんでる…
さすがに
やりすぎでは？

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


第56話
これって…俺の部屋!?
これは
魔法で再現されてるだけ
なんで…


ヒメが
作ったのか？
すごいな…
作ったって
いうか…
勝手に
出来たって
いうか…
はじめては…
サトウの部屋で
するんだろうなって
ずっと思ってたし
カァァー…
…サトウが
あんなこと
言うから！



あんなこと
って……
俺は…
今度こそ
ヒメを抱く!!!
…!


うーむ
ふたりは出てこんのう
大丈夫なのかあれは…
闇の魔力はすっかり感じなくなってるし
たぶん大丈夫だと思うんだけど…
まぁ…
きっと大丈夫でしょう
深淵の軍勢も去りましたし焦ることはありませんよ


もうっ
呑気なんだから！
足場を作るなり飛ぶなりして突入したほうが良いんじゃないのか？
プンプン
どうした
どうした？
焦ってるな～
グラニャートちゃん
あの指輪王にそこまでご執心なのか？
がばっ
心配するのは当たり前だろうが!!
ふぁあ～
なんとかなったは良いが
暇になってしまったのじゃ…
いったいあやつら
上で何をしとるのやら




今まで
こっちに来てから
何度か
こういうこと
あったのに…
おかしいね
あ…
あぁ…
サトウ‼
ヒメ‼
●●●●●●
あはは…


ヒメ…
本当に良いのか？
こういうことは…その……
身体に負担をかけることになるかもしれないし…
…心配してくれてるんだよね
…分かってる
でもそれはサトウだって同じだよね
闇の侵食が進んでる


もう躊躇ってる場合じゃない
死んじゃったら何も出来なくなっちゃうもん
全部終わらせるために出来ることは全部やろう
後回しになんてもう出来ないよ




んっ…
ギュ…
スス…


…どうしたの？
なんかこう……
これまでは勢いに任せてって感じだったから……
ちゃんと手順を踏むと……こう……
思った以上に緊張するっていうか……
焦んなくてもいいんじゃないかな…
とんっ
わたしたちのペースでゆっくりと進めばいいんだよ
今回は絶対邪魔なんて入らないんだから
そうだな…


そもそもここは
そのために作った
場所なんだし…
ポン
…ん?
…なんでも


サトウ…


…ううん
違うかな?
わたしたち……もう ちゃんと夫婦になるんだから
下の名前で呼ばなきゃね
春人(ハルト)…


俺もちゃんとした名前で…
クリストルって言ったほうが良いかな
わたしはヒメで良いよ
そのほうが好きだもん
ヒメ…


ハルト…
愛してるよ


ぬおぉ!?
これは!
光がさらに強くなってる…!?
先生!!
ほほほほホントに大丈夫なのこれ??


光の指輪の力が…
さらに増しておるのか!?
おじいちゃん!
むぅ…これは恐らく…
サトウくんついに…
!?
どうしたアラバスタ!
何が起こっているのか分かってるならはっきり言ってくれ!
これはその…
つまり…


〝その時〟がついに来たということじゃ




あのね…
ハルト…


わたし…
本当はずっと
ハルトの世界に
いたかったんだ
そんなの
無理だって
分かってたけどね
だけど…
もしかしたら
ハルトが使命から
解放してくれる
かも…って
ずっと
ここにいて良いって
言ってくれるかも
………って
ハルトは
わたしのことが
好き…
きっと
そうなんだと
思ってた
でも
確信なんて
なかった
ずっと一緒にいる
幼馴染みだったから
…そうは
ならなかった
けどね


だからちょっと過激な恰好もして
女の子として意識されようと思った
そしたら何かが起きるかもしれないって
ちょっとは効果あったのかな
それは…
そうかもしれないいな
ふふっ
結局わたしはぜんぶ諦めちゃった
こっちにハルトが来てくれて
それは思いもよらないことで嬉しかったけど
かといって思い通りの関係が手に入ることもなくって…


諦めたりする必要なんてなかったのにね
ハルトはずっと　わたしのことを見てくれていたんだから
わたしはただハルトのお嫁さんになりたい
子供っぽいかもしれないけど…それが正直な気持ち
先のこととか…どうしたいとか分からないけど
それでも良いんだよね


俺も同じだ
大事なことを諦めてた
ヒメとちゃんと恋人になっていろんなことがしたいって思ってたのに…
その勇気がなかったんだ
こっちの世界に来てからは
指輪のこともあったし…
ちゃんとしなきゃいけないって思い過ぎてたんだな
もっとしたいと思うことを素直にすればよかったんだ
あの時…
こっちの世界に飛び込んだ時みたいに


…じゃあ
したいこと もっとする？
…え？
い……良いのか!?
…したくないの？
いや…ヒメが良いなら…っていうか大丈夫なのか？
はじめてだったんだから…その……女の子は……
思ったより大丈夫だったし…
それにほら みんなの所に戻ったら いつでもってわけにも いかなくなると思うし
今のうちにって…
!
あのさ…
前から思ってたんだけど…


ヒメって結構…スケベだな
カァ……
やっぱりそうなのかな…わたしって…
いやぁ…あの闇のヒメもすごいえっちだったもんな…
やめて——!!
忘れて——!!!



何度も明滅を繰り返す尖塔
ピカー
ピカー
何が起こってるのこれ……!?
むうー…

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS



チュン…
チュン…


第57話
おはよう
ハルト…




ヒメ…
チュー
チュー…
…どうしたの?
がばっ!!
んん〜…
もそもそ…
いちゃいちゃ
あ♡
やんっ♡
ちょっと…
ハルト♡


いいのかな…
こんなことしてて……
…なにが？
だってみんな心配してるんじゃ…
……！しまった!!

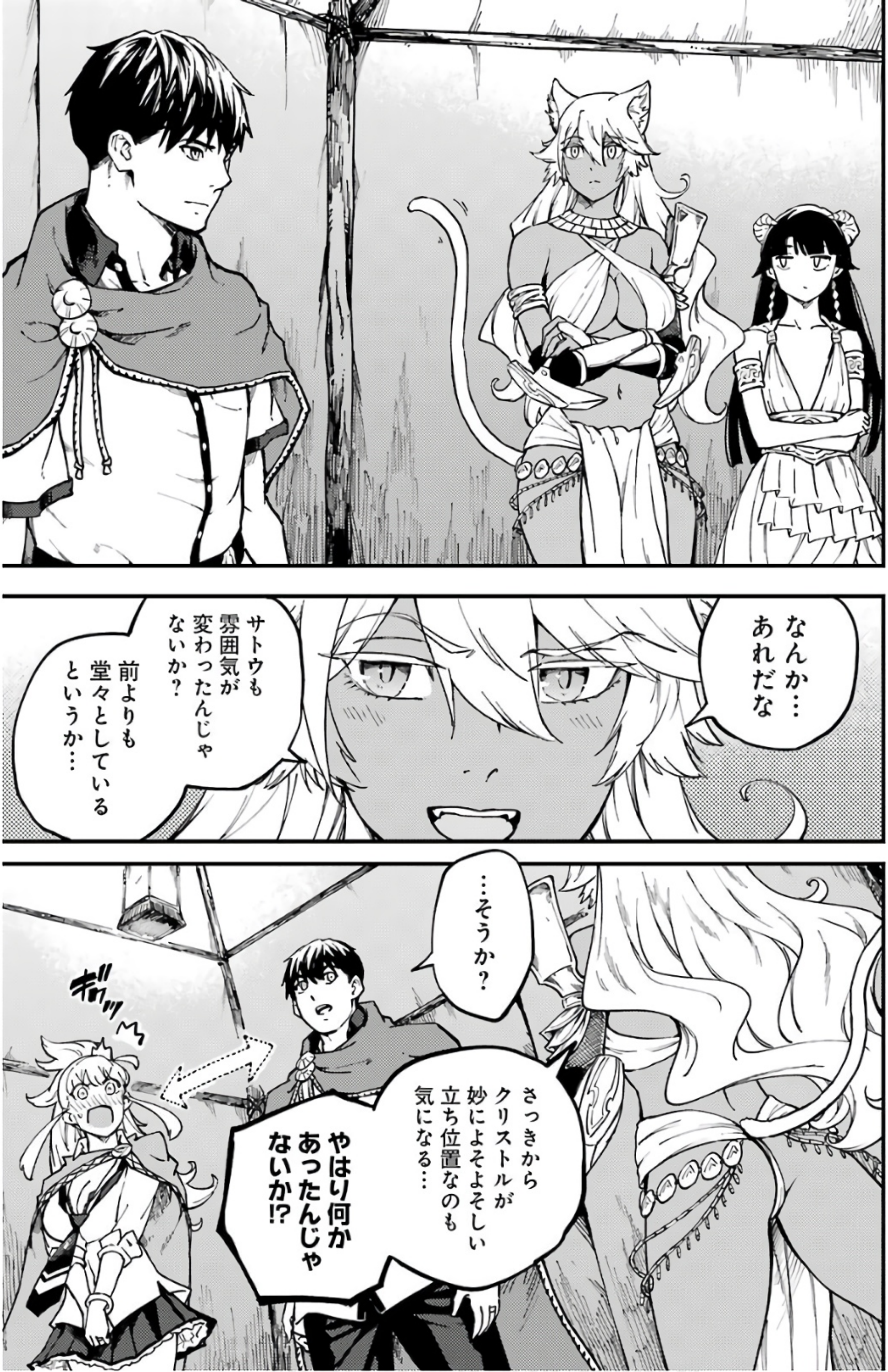

あれから まる一晩か……
お姉ちゃんたち… どうしたんだろ？
まぁ 心配には 及ばんじゃろ
時に若い ふたりには このような 時間も 必要じゃ…
どゆ こと？
それに しても…
確かに 長すぎる 気もするのう
ゴゴゴ
!!


おじいちゃん！
…あれ！
サトウくん…！


さすがに心配したぞ
深淵王の力を払い除けるのはさぞ苦労したことだろう
これ程時間がかかるとは…
えっとそれは…
クリストル様もついに光の力を手にしたのですね！


ネフリティス殿は さらに強力な風魔法が 使えるようになった
もともとの素養の高さと 指輪の力もあって これほどの風魔法使いは おそらくおらんじゃろう
グラナート殿は 火の魔法による 魔力の強化
先の戦いぶりならば 深淵の軍勢とも 十二分に渡り合える
そして クリストルの光魔法
強力な破邪の光で 深淵の魔物を 消し去れることだろう
出来ることは すべてやった…
もう恐れはない


今こそ
深淵王に挑む時だ
すべてを…
終わらせに
行こう！


なんか…あれだな
サトウも雰囲気が変わったんじゃないか？ 前よりも堂々としているというか…
…そうか？
さっきからクリストルが妙によそよそしい立ち位置なのも気になる…
やはり何かあったんじゃないか!?
ギクッ


べ…べつに特別なことは何もなかったよね？
ハルト…
はると？なんだそれ…
俺の下の名前だ
そんなの初めて聞いたぞ！
急に呼び方を変えたのはどういうことだ？
怪しいな〜
え…えっ それはぁ〜…
ぶっちゃけアレじゃや
ヤったんじゃろ
!?



そうなのか!?
ずいっ
そうなんですか!?
ずいっ
う…うん…
その……
実は……あの後……
しちゃった♡
まさか塔から降りてこなかったのは一晩中ずっと……!?
それはハルトがなかなか満足してくれなかったから!
キャッ
キャッ
キャッ
情熱的だな…!
これこれいい加減にしておきなさい
なるほど……ついにクリストルが…
そうか…
そうか…


つまり我々も
もう遠慮は要らないということだな!!!
!!
ちょっと待ってください!
んにゃあっ!?
ギュッ
尻尾はおまえ!
ダメだろ!


わたしたちの今の目的は深淵王を止めることです
こそ
こそ
そんなことは分かっているが
ならば出来ることは全部やらなきゃ駄目だろ
今まではふたりの関係を尊重して我慢してやっていたが
わたしたちもサトウとさっさと……
指輪の力は絆の力です
今のお二人の絆の力は良い流れで最高潮！……のはず
そこでわたしたちが間に割って入ってしまっては台無しにしてしまうかもしれません
そ…そうか
それは分かるがわたしたちだって指輪の姫なんだぞ？サトウの妻なんだ
我々の気持ちだって…


グラナート様は
サトウ様のことを指輪の姫としてのみ信頼しておいでですか？
…！
こしょこしょ…
‼
なるほど…
今は祝福しておきましょう……
今・は・

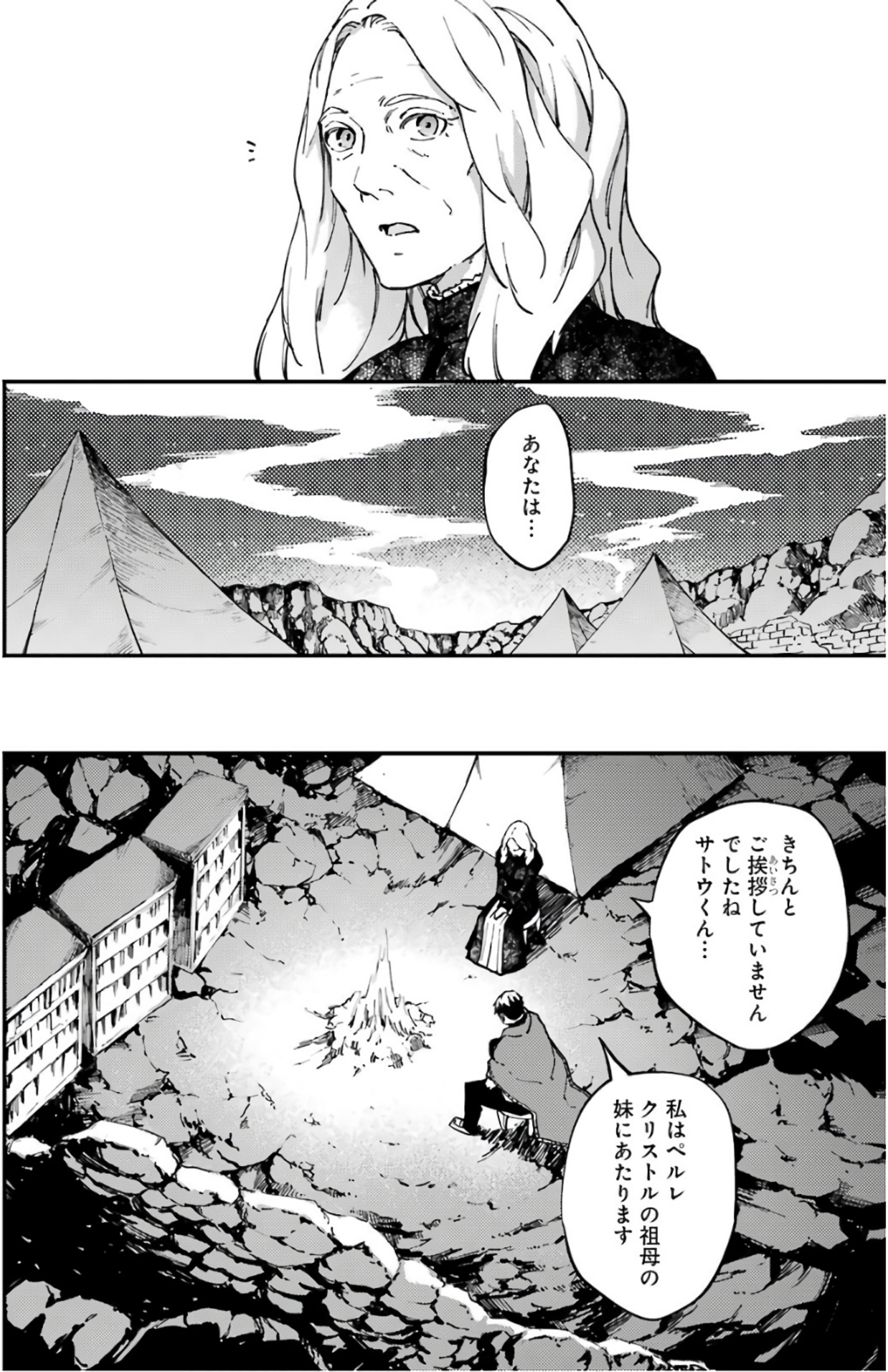

すす…
…？




帝国の軍が
北の地に向かい進攻を始めたようじゃ
！
塔を攻めるため深淵王がある程度の規模の軍勢と巨大な魔物を召喚し
それをサトウくんらが倒した…
今が攻める好機と見たらしい
深淵王は今でも北にいるのか？


うむ
大山壁(だいさんへき)の向こう…
バーンナーの地……
わしらも
急ぎ向かった方が
良いじゃろうな
明日…
準備が出来次第
出発するぞい


いよいよか…
出来ることはすべてやった…
本当にそうか？
いや　これ以上のことは…


あなたは…
きちんとご挨拶していませんでしたねサトウくん…
私はペルレクリストルの祖母の妹にあたります


なんか…すみません…
この辺りめちゃくちゃになっちゃって……
気にすることはありませんよ
書物や研究資料もいくらかは無事だったようですし
塔もあんな姿になってしまったけど
幸いなことに失われた命はありませんでした
我々はここでふたたび塔を築きます
かつての賢者バサルトのように
こちらこそ…クリストルのことを救ってくれてありがとう
私たちではどうにも出来なかった…
本当に素敵な人なのね
クリストルが話してくれましたよあなたのことを


クリストルのことをよろしくお願いします
…あの子の良い家族になってあげてくださいね


…はい
あとモーリオンのことも…
え!?
フフ可愛い妹としてですよ
そうそう
簡単な宿を用意しておきましたから
今夜はそこでゆっくり休んでくださいね
ありがとうございます!

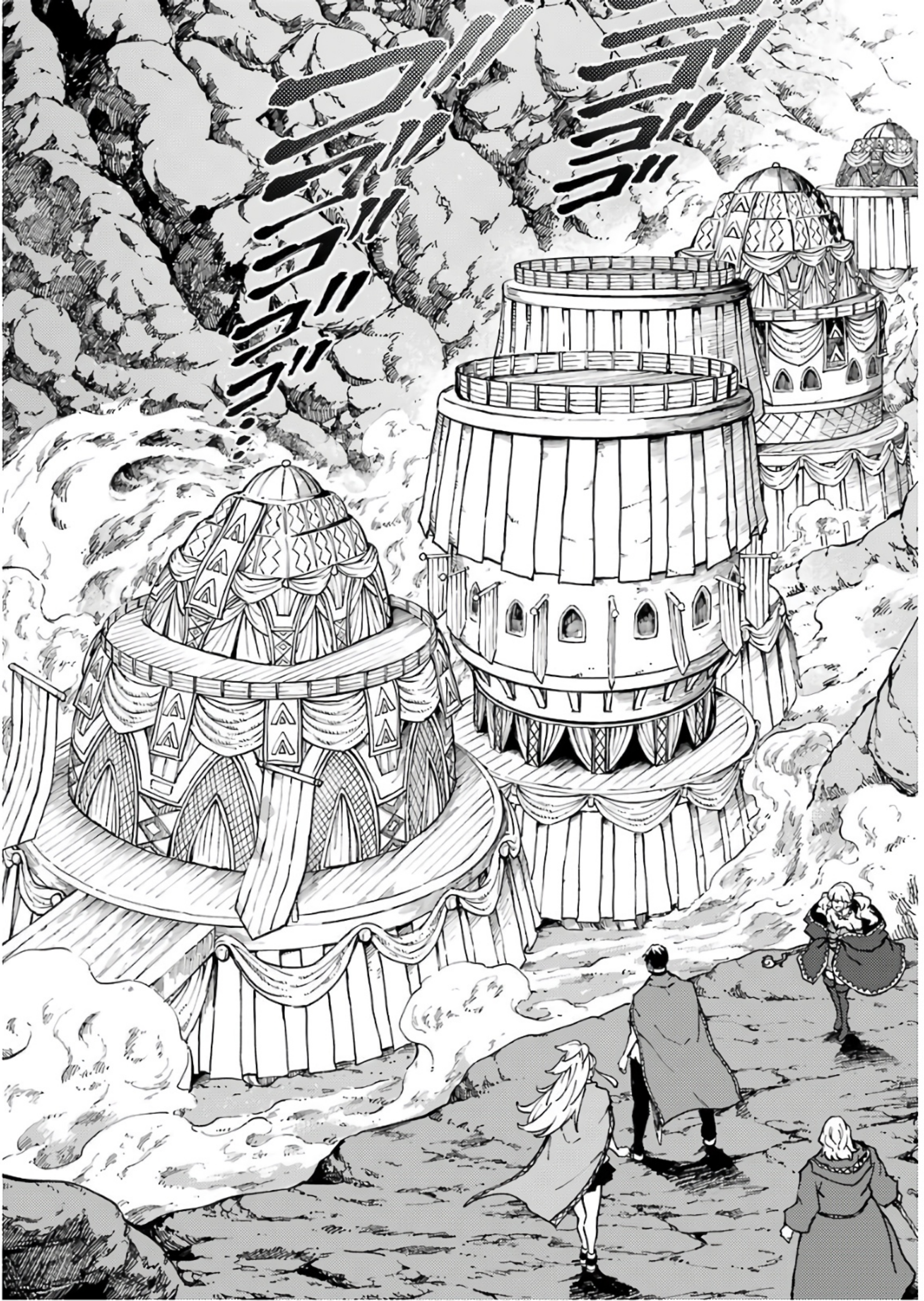

あ
お兄さん！
ペルレ先生から聞いてるよ
お兄さんの部屋はここだって
ああ…
サッ…
あれ…ヒメ!?
ハルト!?


おじいちゃんがこの部屋だって…
俺もこの部屋だって…
同じ部屋がいいでしょ?
だってさぁ…
あ そうそう
この部屋音とか外に丸聞こえだから
ほどほどにね
言っとくけどこれはあたしが仕組んだんじゃないから!
じゃあね～☆
モーリオンの仕業じゃないのか…まったくあの人らは……
ほどほどに…
いいんじゃないかな…
その…一緒に夜を過ごすのは…
もう当たり前のことだと思うし…
ヒメ…





ゴゴゴゴ…
!!
ゴゴゴゴ…
なんだ
この音?
なんか
聞いたこと
あるような
音だな……
え…?
ゴゴゴゴ…
お兄さん!
大変だよ!
早く
外に来て!!
!?


ゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴゴ…


ニーダキッタの魔動車（まどうしゃ）!
なんでこんな所に!?


…
指輪王！
皇帝の命によりお迎えに上がりました！
！！


何があった？
お前たち
あ！
グラナート様!!
我々の
本来の生業は
傭兵だ
とはいえ
通常ならば
強大な兵力を持つ
帝国が
我々に仕事を
依頼することは
ないのだが…
今回は
特別です
深淵の軍勢相手には
兵力が
いくらあっても
足りませんから
当初は塔を狙う
深淵の軍勢を倒し
深淵王の力を削げ…
という任務だった
のですが
意外にも指輪王が
ちゃっちゃと
やっつけちゃったので
第二の任務
最前線への
指輪王の護送！
に変わったのです!!


なるほど…
さすが皇帝ぬかりがないのう…
さぁ早く乗り込んでください！
さっそく向かいますよ！
いざゆかん大山壁へ!!!
結婚指輪物語10　おわり


いざ行かん!!
なんか最後に急に出てきて目立ちすぎでは!?



結婚指輪物語10巻

あとがきページ

ついに１０巻です。
前作（黄昏乙女×アムネジア）に続き
１０巻以上続けることが出来ました。
ありがとうございます！

いい加減、いつサトウとヒメはえっちなことをするんだ…
と思い続けていた方も多々おられるかと思いますが、
今回ついに致してしまいましたね。
若干行き当たりばったりな進行のお話作りだったので、
思ったより遅くなってしまいましたが……。

ここまで来たらもうこの漫画も
終わりなんでしょ？と思うでしょうが、
もう少しだけ続く予定です。

つまりふたりが結ばれた後の余韻を
たくさん楽しめるということですね！
そういうのもやりたかったことのひとつなので、
最後まで楽しんで描いていきたいと思います。

それでは、次の１１巻もお楽しみに！

めいびい

アーヌルス博物誌

五つの指輪が司る光火水風土，さらに深淵が司る闇を加えた六つの魔法は六大魔法として広く知られている．そのうち光と闇の魔法は火水風土の四大魔素をもちいる魔法とはその根本を異にするものである．さる研究によれば，いずれも魔素をまったく操ることなく特異な事象を引きおこすという．四大魔素の魔法が物質世界を操るものだとすれば，光と闇の魔法とは何をもたらすものなのか．あらためて世界の根幹にも関わると伝えられる二種の魔法について記す．

光の魔法は光の指輪を持つ者のみが扱えるとされる破邪の魔法である．しかし唯一の使い手である指輪の継承者でさえ，完璧に使いこなしたものはいないとされている．魔導の尖塔においては当然ながら使い手こそいないものの，研究によってその特性のいくらかは解明されつつある．その最たる特性は，魔素を魔力で動かす四大魔法と異なり，魔力そのものをぶつける点にある．

そもそも光の魔素は発見すらされておらず，その観測は光魔法研究者にとって積年の夢であった．ある者は真昼の陽光を瓶に捕えようとし，またある者は内面が鏡張りの球体に閉じこもり観測を試みた．残念ながらこれらの挑戦は徒労に終わり，後者にいたっては精神に大きな傷を負う結末となったという．近年の研究では光の魔素は存在せず，特殊な状態となった魔力そのものが我々の目には光として観測されると結論づけられている．魔力が空間を伝わる速度よりもはるかに高速で放出されることで折り重なり，あふれた力が光を放つとされる．だが，いかんせん根拠も薄く眉唾である．

深淵の者にのみ効果をもたらすとされる点も光の魔法研究が遅々として進まない理由であった．指輪王の時代より後の世において深淵の魔物の活動は極めて少なく，光の魔法が振るわれる機会があったとしてもそれは火急の事態であり記録を取るどころでは無かったためである．数少ない研究の機会は，魔導の尖塔にて行われるノカナティカ王家の魔法修練の時のみであった．特に先代ノカナティカ王妃の修業に際しては多くの魔法研究者が訪れ，その光景に涙を流す者，感極まって声援を送る者，握手を求める者などそれはそれはたいへんな騒動であったと記録されている．

四大魔法と光の魔法の源である魔力は，多くの魔法書において意思の力と記されている．しかし人の精神に依存するその不安定さ，計測のし難さから魔力そのものの研究はほぼ放棄されているに等しく，魔力に強く依存するとされる光の魔法の本質に迫ることを妨げている．

アーヌルス博物誌

闇の魔法は深淵王とその眷属が用いる滅びの魔法である．
深淵に与する者にしか扱う事が出来ないが，この世界にとって大きな脅威であるがゆえ対抗策を探るべく研究が盛んに行われている．とはいえ闇魔法に関する文献はそのほとんどが偽書や妄想の類いであり，ごく少数の信憑性のある文献や深淵の魔物との戦闘記録からの研究は藁の中の針を探すようなものであり，光魔法と同様にその進捗は遅々たるものである．

魔物を生み出し，深淵王の騎士を操り，呪いをかける．深淵王が操る闇の魔法の効果は多岐にわたるが，その機序は他の魔法と決定的に異なるとされる．魔素を用いないのは光の魔法と同じだが，魔力すら用いていないと考えられているのだ．通常の魔法であれば魔法行使の痕跡としてその場に魔力の残滓が残る．いわば魔法使いの意思が残されることになるのだ．しかし，闇の魔法が用いられたとき，有能な魔法使いにはそこが魔力の空白として感じられるという．意思をもたずに魔法を使うことなど可能だろうか．まこと奇妙ではあるが，意思を持たぬ意思の力．それこそが闇の魔力と言えるのかも知れない．深淵の魔物に光の魔法が有効である理由は，光魔法の純粋な魔力が闇の空白を埋めてしまうためと考えられているが，これもひとつの仮説にすぎない．

なお，闇の魔法は魔法を学ぶ者であれば一度は触れてみたくなる魅力を持つという．通常とは全く異なる原理，底知れぬ危険性，誰も使えない希少性などが魅力の一因とされる．若い魔法使いであればあるほどその誘惑は抗いがたく，使えもしないのに闇の魔法書を作ってみたり，独自の呪文を考案したりといった事例は枚挙にいとまが無い．これらが世に出回ることもままあるが，多くの場合著者は羞恥を覚えて名乗り出ず，偽書の判別もつかないまま闇魔法の研究者たちを惑わす事となる．



◀ 著名な魔法書『オクラノミホン』．表紙には深淵王の姿が描かれているが根拠の無い想像図である．



『大王偽書』 ▶
エロがどうのという召喚呪文で広く知られている偽書．

闇からの誘惑は深淵王が魔道へと誘っているわけではなく，人が成長していく上での通過儀礼のようなものであり，魔法使いたちにとっては定番の笑い話の種である．しかし，深淵の呼びかけなくとも闇を生み出すその行いは，人の心の奥底に深淵が潜んでいることを暗示しているのかも知れない．


NEXT
ようやく結ばれたサトウとヒメ。
そして指輪王一行は
ついに深淵王の元へ——!?
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第11巻 乞うご期待！！

デジタル版　Ver.1.00

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑩

著者／めいびい

2021年 1 月25日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志・長岡徹郎

装幀　阿閉高尚(atd)

初出／月刊ビッグガンガン2020 Vol.06～Vol.12

EXTRA CONTENTS ¦¦ カバー折り返し

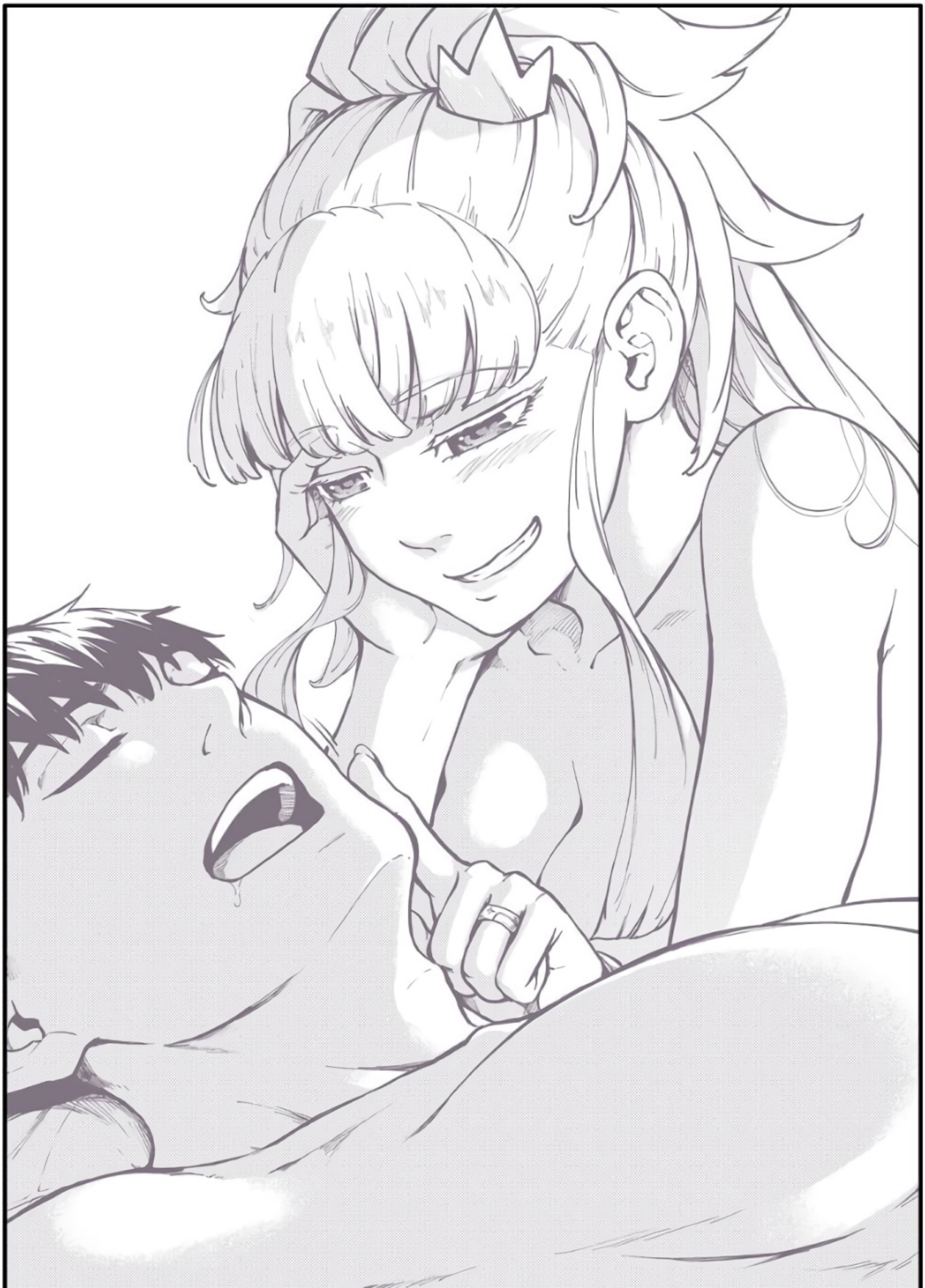


めいびい

MAYBE

あまりにも誉れが足りない。

※コミックス発売時のカバー折り返しを収録



※コミックス発売時の表紙 表を収録

Tales of Wedding Rings

10

Presented by
MAYBE

BIG GANGAN
COMICS

SQUARE ENIX.

※コミックス発売時の表紙 裏を収録

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

深淵王の眷属に惑わされ、魔導の尖塔に引きこもってしまったヒメ。
彼女の心の中の世界と化した塔の内部で
サトウは様々な姿のヒメに出会い、不思議な問いかけを受ける…。
ヒメが囚われた闇の心の正体が少しずつ明らかになる中、
遂にサトウはある重大な決断を下す――!!

10

Presented by
MAYBE

※コミックス発売時のカバー裏を収録